

エアコンとストーブ・ヒーター運用ガイドライン

令和5年11月
太田市教育委員会

1 はじめに

現在、冬場の暖房については、エアコンとストーブ・ヒーターによる併用方式となっております。感染症予防として衛生管理マニュアルに沿った換気をお願いしております。

そこで、下記のとおり、太田市立小・中・義務教育学校冬季暖房機器運用ガイドラインを見直し、児童生徒の体調並びに学習環境等を考慮した、効率的な運用を統一的に行うものです。

記

2 暖房機器（エアコンとストーブ・ヒーター）の稼働期間等

(1) 標準稼働期間

- ・12月1日から3月末日まで
(ただし、校長が必要と認める場合はこの限りではない。)

(2) 運用場所

- ・教室
- ・体育館…エアコンを使用せず、ストーブ・ヒーターを推奨する。
(ただし、校長が必要と認める場合はこの限りではない。)

(3) 運用

- ・開始の目安…教室の温度が18℃に満たない場合
- ・運用の方法…教室が冬期の望ましい温度である18℃～20℃にする。

(4) 運用時間

- ・始業前から2校時終了までとする。
(それ以降も望ましい温度に満たない場合は、継続使用を認める。)
- ・その他、校長が必要と認める場合は、弾力的に運用する。
- ・児童生徒及び教職員が使用しない時は必ず運用を停止する。

3 暖房機器を使用する際の注意

(1) 児童・生徒の体調管理

- ・暖房の運用に伴う体調の悪化に注意する。
- ・温度設定を適切に行い、望ましい室温の管理に努める。

(2) 換気

- ・衛生管理マニュアルに沿って換気を行う。
- ・休み時間等に教室内の空気を入れ換えるなど、十分な換気に努める。
- ・掃除作業中は暖房機器を稼働せず、窓を開閉して換気を行う。

【参考】 エアコン設定ガイドライン

【参考】 教室のエアコン設定ガイドライン			
	設定項目		温度設定
1	○温度設定範囲制限モード ・冷房・ドライ・暖房の各モードで、設定温度の上限・下限を選択する機能	冷房	室内温度28℃以上の場合に運用。 室温26℃～28℃になるように運用。
		暖房	室内温度18℃以下の場合に運用。 室温18℃～20℃になるように運用。 (60分使用すると20℃に戻る) ※原則2校時までの運用 ※ストーブ・ヒーターの併用可 ※扇風機の併用で暖気を循環させる
2	○設定温度自動リターンモード ・設定しておいた温度を変更しても、一定時間が過ぎると自動的に設定温度に戻る機能	冷房	26℃
		暖房	60分使用すると20℃に戻る
3	○消し忘れ防止モード ・決めた時刻に運転を止め、その後、運転させても一定時間ごとに検知して自動停止する機能		運転時間 7:30 ~ 17:00 (以降1時間ごとに切れる)

※メーカーによって異なる部分もあります。詳細は、設置機器の取扱説明書を確認してください。

【参考】 体育館のエアコン設定ガイドライン			
	設定項目	温度設定	
1	○温度設定範囲制限モード ・冷房・ドライ・暖房の各モードで、設定温度の上限・下限を選択する機能	冷房	18℃～30℃
		暖房	16℃～30℃ ※基本的に、暖房としては使用せず、ストーブ・ヒーターを推奨する
2	○設定温度自動リターンモード ・設定しておいた温度を変更しても、一定時間が過ぎると自動的に設定温度に戻る機能	冷房	設定しない
		暖房	設定しない
3	○消し忘れ防止モード ・決めた時刻に運転を止め、その後、運転させても一定時間ごとに検知して自動停止する機能		運転時間 7:30～21:30 (以降1時間ごとに切れる)
4	○ウィークリータイマー ・複数の曜日を同じスケジュールにする機能	月～金	手元許可 7:30 停止 ①13:00 ②16:00 ③19:00 ④21:30 手元禁止 21:30

※メーカーによって異なる部分もあります。詳細は、設置機器の取扱説明書を確認してください。